

1 学群・学類

1.1 第一学群

1 第一学群の活動

第一学群は、人文、社会、自然各学類の専門分野についての基礎的学力を身につけるとともに、高度な創造力を持った教養人を育成することを教育目標としており、この目標の実現のために各学類はそれぞれ積極的に教育活動を展開してきた。学群運営は各学類の主体性・独自性を尊重する形で運営されているが、学類間の連絡・調整もうまく機能してきた。なお今年度は、法人化後の学群教育のあり方について、月例で開催される学群長・学類長連絡会において様々な角度から意見交換を行った。

学群としての活動は、概略、次の通りである。

(1) 教員会議を4回、運営委員会を1回開催し、学群予算の編成と執行、学生問題等について審議した。入学及び卒業に関しては、入学者選考委員会を8回、卒業生判定特別委員会を3回開催した。

また、学群長・学類長連絡会を月例的に開催し、学群としての方針の策定及び学類間の連絡・調整にあたった。

(2) 施設や設備の老朽化が一段と進んでいるため、雨漏り箇所の修理、教室のドアの修理、教室内の授業用備品（OHP、スクリーン）の更新等を行った。また、2階ペDESTリアン上の自転車駐輪場（駐輪帯）を増設することにより、駐輪場の整備を図るとともに、駐輪禁止区域の標記を明確にし、自転車での走行及び歩行者の安全かつ円滑な通行を確保した。また、教育環境整備の一環として、学群棟A棟、C棟及びD棟外壁改修工事を実施し、学群棟の環境美化を図った。

(3) 学務関係では、今年度から新学務業務システムが導入されたのに伴い、とくに新入学生への説明、講習、実習を徹底するなど、学務システム運営委員会、人社及び自然サテライト等の協力の下に学生のシステム活用に万全を期した。また、学生の履修登録単位上限設定の制度についても、所期の目的の通り実施できた。

(4) 学生生活関係では、いずれも軽微ではあるが、11件の交通事故が発生し、その都度、当該学生に対して注意喚起を行った。また、連続して不審火が発生したことに対応して、非常時における連絡先（第一学群警備員室、本部防災センター）の電話番号を記した筑波大学セーフティーカード「あなたと友だちのために！！」を作成し、学生に配布した。

2 教員の教育業績評価の状況

人文・社会・自然の三学類は扱う学問分野も教育目標も異なるので、全教員一律に教育業績評価を行うことは困難である。したがって、業績を高めるための方策や評価の基準・方法の設定については、基本的には各学類の判断に委ねざるをえない。自然学類では、学生による授業評価を精力的に行い、教員の授業改善に成果を上げている。個々の教員も、授業方法の改善やレベルアップに日常的に努めており、また入試・カリキュラム編成・学生生活指導等の業務にも誠実かつ積極的に取り組んでいる。

3 自己評価と課題

「基礎学群」としての本学群の教育活動は順調に行われてきたといえる。しかし、法人化を来年度に控えて、本学群のあり方に関して、筑波大学の将来設計および中期目標・中期計画に対応して、その改組・再編などのあるべき具体的検討を迫られている。とくに授業評価を含めた教員の教育業績評価については各学類および学群としての評価基準を策定する作業に早急に着手する必要がある。また、履修登録45単位上限設定について、その本来の趣旨が責任ある授業運営と厳格な成績評価であることから、教育組織のカリキュラムの見直し及び教官の授業改革等の検討を早急に進めるべきことが課題である。